

被爆・福山空襲 70 周年記念誌

1945 年（昭和 20 年）8 月 8 日

# 福山が燃えた日

太平洋戦争末期，日本のどこかで毎日のように空襲がありました。  
8 月 6 日，広島への原爆投下，9 日，長崎への原爆投下，  
そして，私たちの福山にも空襲がありました。



撮影：坂本万七 1946 年（昭和 21 年）5 月

福山城より南東を望む。上面は，崩れ落ちた葦陽館と古松。  
湯殿の突出石が見える。右は駅舎。

**福山市人権平和資料館**

## はじめに

2015年（平成27年）は、戦後、そして被爆・福山空襲から70年の節目の年でした。戦争体験者が高齢化し、その体験や記憶が遠い過去として葬り去られようとしている中で、戦争を風化させないための取組が全国で行われてきました。

本資料館においても、2014年度（平成26年度）から「ふくやまピース・ナビ（平和案内人）」養成講座を開催し、戦争体験の伝承に取り組んでまいりました。そして、今年度、本資料館と「ふくやまピース・ナビ」が協働して、福山空襲をはじめとする戦争体験の聞き取り活動を行ってまいりました。その結果、「もう二度と誰にも自分と同じ悲しい思いをさせたくない」という戦争体験者の思いを受け取り、後世に形として残すために、2015年（平成27年）10月、戦争体験をお聞きする会を収録・編集したDVD「福山が燃えた日」を発行し、市内小中学校等へ配布したところです。

一人ひとりの体験は、個人的な事実であり、誰にも共通するものではありません。しかし、多くの人々の体験（事実）を積み重ねていけば、あの戦争は一体何だったんだろうという疑問や戦争の実相に迫ることができるかもしれません。この冊子は、こうしたねらいから、小中高生をはじめ多くの方に読んでいただけるよう、太平洋戦争や福山空襲について、基本的なことから証言の多くに共通するものを掲載しています。

多くの尊い人命を奪い去る戦争は最大の人権侵害です。

この冊子を一人でも多くの方に読んでいただき、誰にも幸福をもたらさない戦争という行為の愚かさを感じとっていただければと思います。そして、次の戦後80年を、戦争のない平和な社会として迎えることができるよう、平和の大切さについて理解を深め、自分にできることから行動につなげていただく機会となれば幸いです。

2016年（平成28年）3月

福山市人権平和資料館

館長 渡辺 慎吾

## 目 次

### 第1章 福山が燃えた日

|               |    |
|---------------|----|
| 太平洋戦争のはじまり    | 1  |
| 日本への空襲の状況     | 1  |
| なぜ福山に空襲があったのか | 3  |
| 空襲予告ビラ（伝単）    | 4  |
| 戦時下の暮らし       | 5  |
| 福山空襲          | 6  |
| 戦争の被害         | 10 |
| 平和非核都市福山宣言    | 11 |
| おもな出来事（年表）    | 12 |

### 第2章 福山が燃えた日～証言集抜粋

もっと知ろう、戦争のこと！～戦争体験者の証言から～

|                      |    |
|----------------------|----|
| 戦争中はどんな暮らしをしていたんだろう？ | 13 |
| 福山空襲の様子は、体験した人の思いは？  | 16 |
| 終戦直後の暮らしはどうだったんだろう？  |    |
| 町の復興は？               | 17 |

### 第3章 福山が燃えた日～証言抄

「『福山が燃えた日』リレートーク～私も聞きたい！話したい！」から抜粋

|               |    |
|---------------|----|
| 木村 滋さんの福山空襲体験 | 20 |
|---------------|----|

### 参考

福山空襲焼失家屋地図と空襲遺跡

### 【太平洋戦争のはじまり】

1931年（昭和6年）9月18日以降の「満州事変」から、1937年（昭和12年）7月7日の盧溝橋（ろこうきょう）事件を発端とする「日中戦争」、1941年（昭和16年）12月8日の真珠湾攻撃に端を発した「太平洋戦争」、そして1945年（昭和20年）8月15日の終戦にいたる15年にわたる一連の戦争を15年戦争とといいます。

中国との戦争が本格化していくなかで、日本の陸海軍は中国大陸における戦争を進めながら、陸軍は対ソ連、海軍は対米（アメリカ）戦争に備えていました。

そして、1941年（昭和16年）12月8日、日本軍がマレー半島に上陸、海軍機動部隊がハワイ真珠湾を空襲し、太平洋戦争の火ぶたが切られたのです。



炎上するアメリカ海軍戦艦「アリゾナ」

### 【日本への空襲の状況】

太平洋戦争開戦後、アメリカ軍は日本本土への戦略爆撃、とくに木造家屋の密集する都市攻撃への効果を考へて、長距離戦略爆撃機 B-29 を開発しました。そしてマリアナ諸島を占領した4カ月後の1944年（昭和19年）11月末には、サイパン、グアム、テニアンなどの飛行場を基地とする長距離爆撃隊による本土空襲が可能になりました。

当初、アメリカ軍は、東京都の中島飛行機工場など、もっぱら飛行機エンジン工場を爆撃しました。その後、B-29 による攻撃方法を切り替え、日本国民の生活の破壊と戦意の喪失を目的として、1945年（昭和20年）3月10日の東京大空襲をはじめとする大都市空襲を行いました。

終戦前の6月中旬ごろからは、地方都市の工場や住宅密集地を目標として、夜間に複数の都市を空襲する作戦をとりました。



B-29

空襲の目標となった市街地



戦前の福山駅周辺の航空写真 撮影：宮島航空研究所 1935年（昭和11年）



福山駅周辺地図 1945年（昭和20年）当時

## 空襲直後の福山の市街地



白く見える部分  
が焼けた場所

アメリカ軍は、空襲後できる限り迅速に、爆撃の効果を調査するため写真撮影をしました。

### 【なぜ福山に空襲があったのか】



福塩線が全線開通した当時の福山駅のにぎわい  
1938年（昭和13年）

福山市は、1945年（昭和20年）8月1日現在の世帯数13,671戸、総人口58,745人（配給人口）が示すように、地方の中小都市にすぎませんでした。太平洋戦争の激化とともに軍事施設の拡大と工業の軍需化が進み、小規模ながら軍事都市化していました。

福山の歩兵第41聯（れん）隊は、日中戦争中は中国大陸に出動転戦し、太平洋戦争中はマレー半島、ニューギニア、フィリピンに転戦していました。

また、1944年（昭和19年）3月、大津野村（現在の大門町津之下）にあった水上航空機

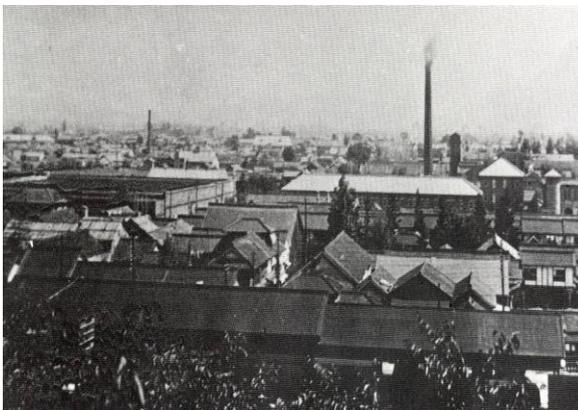
乗員養成所の充実した施設に注目した海軍は、  
 詫間海軍航空隊の分遣隊を設置するとともに、  
 新たに施設の充実を図り、1945年（昭和20年）  
 3月、福山海軍航空隊として独立させました。

1945年（昭和20年）4月1日、アメリカ軍  
 の沖縄本島上陸がはじまると、福山海軍航空隊  
 においても神風特別攻撃隊が編成され、6月、  
 福山から九州・天草へと出発して行きました。



特攻隊出撃。隊員は海軍礼式「帽振れ」で送った。

撮影：瀬口利一



三菱電機福山工場。写真の左手前：第一工場、  
 右奥：第二工場（煙突の建物）その手前に市庁舎。

福山への空襲は1945年（昭和20年）3月  
 頃から始まりました。最初は、グラマン F6F  
 艦上戦闘機によって、大津野村の福山海軍航  
 空隊への機銃掃射が繰り返されました。

※機銃掃射：機関銃で敵をなぎ倒すように  
 射撃すること



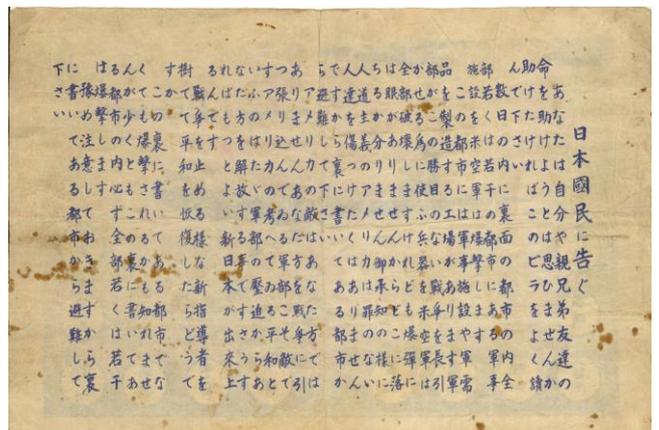
旧歩兵第41聯隊（れんたい）正門（現在の緑町公園）

### 【空襲予告ビラ（伝単）】

そして、1945年（昭和20年）7月31日夜、  
 アメリカ軍は、空襲予告ビラを散布しました。

これは、日本国民を厭戦（えんせん）気分  
 にさせる心理作戦とも言われています。

伝単（でんたん）とも呼ばれたこのビラは、



伝単 ビラの大きさ、A5版

## 第1章 福山が燃えた日

1945年（昭和20年）7月27日から8月5日の間に、3種類、計198万枚が32都市に撒かれ、実際に半数の16都市が空襲を受けました。

アメリカ軍は日本の都市について、人口、工場、港湾、その他都市が果たす役割など詳細に調査しており、アメリカ軍諜報情報部による「都市爆撃予定順位」では、福山89位、尾道107位、三原129位、倉敷159位となっていました。

※厭戦気分：戦争はもういやだ、といった気分



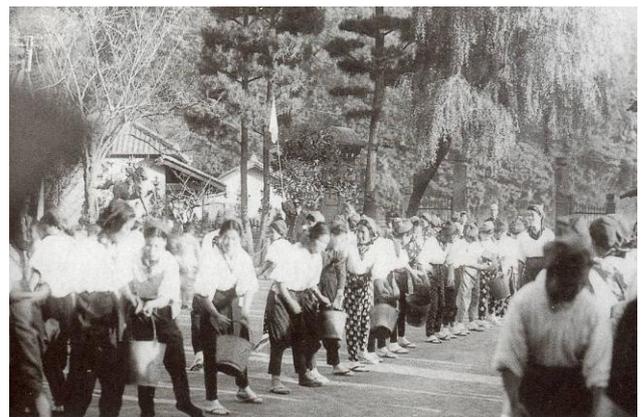
伝単（裏面） 「福山」の文字がある。

7月31日にB-29が散布したビラは福山空襲を予告し、市民の避難を勧告していました。3月の東京大空襲以来、全国の都市が空襲され、大量の人的被害を出しておきながら、軍、警察、市の指導者は全市民を市内からあらかじめ避難させる措置をとりませんでした。疎開は荷物疎開と「重症者、妊産婦、老幼者を疎開避難せしめた」にとどまり、むしろ空襲前、警察は市民に「火災を防ぐために疎開してはいけない」とし、「男は絶対逃げてはならぬ、残って家を守れ」と命令していました。

※疎開：都市に住む学童、老人、女性または産業などを分散させ、田舎に避難させること。

### 【戦時下の暮らし】

他方で、防空演習や灯火管制、避難訓練、竹槍訓練が日常的に行われるようになり、家屋の白壁には空から見えにくくするために黒や茶色のペンキが塗られました。また、町内会あるいは各戸ごとに防空壕や防火用水の設置が強制され、校庭にも貯水槽が掘られました。



婦人会によるバケツリレー訓練

※灯火管制：夜間、空襲に備え、灯火を消したり覆ったりして、光がもれないようにすること

さまざまな統制のなかでも、もっとも市民を苦しめたのは食料に対する統制でした。軍用米の需要の増大と米の生産力の低下がそれにいっそう拍車をかけました。こうした食料の欠

乏に対処するため、節米と称して、二食主義、代用食、玄米食、大豆飯などが奨励されました。しかも戦局の悪化につれて、米に代わり、いもや干しうどんが配給に混じるようになりました。



荒地を開墾してサツマイモ畑に（服部国民学校）



金属類回収令（1941年・昭和16年）

日中戦争、引き続き太平洋戦争と戦争が拡大するにつれて戦争資材も不足していきました。特に金属の不足は深刻で、政府は銅、ニッケル貨などの供出交換、寺院の仏具や梵鐘などの強制供出を命じました。



子どもたちも外出するときは必ず防空頭巾を着用し、胸には住所・名前・血液型を書いた名札を付けました。

### 【福山空襲】

福山市街地への空襲は、ついに1945年（昭和20年）8月8日、午後10時25分頃から約1時間、B-29爆撃機91機によって行われ、福山市街地は壊滅的な打撃を受けました。

雨のように降る焼夷弾によって市内は猛火に包まれました。市民、警防団、警察、軍隊も、はじめは消火に努めましたが、やがて力尽きて退去せざるをえませんでした。防火のため職場に駆け付ける途中や、避難の途中に直撃弾を受けて死亡または負傷するものが多く出ました。



被災市民を誘導する警察官（豊田秀三）

8月6日に広島に原爆が投下されましたが、警防団は「爆弾の光を見たら昼夜を問わず遮蔽物の中に入ると指導」したことから、市民は簡単な防空壕に入ったまま猛火の中を脱出しようともせず、火炎と熱風にまかれて焼死または窒息死する人も多くいました。

堤防の上では、どこまで行ったら安全な場所があるかと暗い方へ逃げています。乳母車に布団を積んで逃げる人、子どもの手を引いて逃げる人、「○○ちゃんはあるか」と叫びながら、暗闇の中でお互いを確かめ合いながら逃げていました。

田んぼの中は、焼夷弾（しょういだん）があちこちに落ちて大穴がぽっかりと空いていました。逃げ場がなくて小川に飛び込んで（リュックを背負ったまま）、B-29 が来た時は橋の下にしゃがんで、去ったときはまた出て、わが身だけでも無事でよかったと、燃えるわが家をどうすることもできず、ただ呆然と見ていました。

当時の服装は、頭には黒色で綿の入った防空頭巾、胸には必ず自分の血液型と住所・名前を書いて付ける。リュックの中は、大豆などの代用（非常）食や衣類。



(藤井 武 文・絵とも)

## 【福山空襲の被害の概要】

|           |                   |         |          |
|-----------|-------------------|---------|----------|
| ● 市街地焼失面積 | 314 畝 (市街地の約 80%) | ● 焼失家屋数 | 10,179 戸 |
| ● 犠牲者数    | 354 名             | ● 被災人口  | 47,326 人 |
| ● 重軽傷者数   | 864 名             |         |          |

出典：「福山戦災復興誌」及び「福山市戦災死没者名簿」



写真右側は、三菱電機第一工場の煙突。アーチ窓の建物は当時の汽缶場（ボイラー）と同第二工場。火がまだくすぶり続け、道路には瓦が割れて積み重なっている様子が見えます。

撮影：瀬口 利一

## 第1章 福山が燃えた日

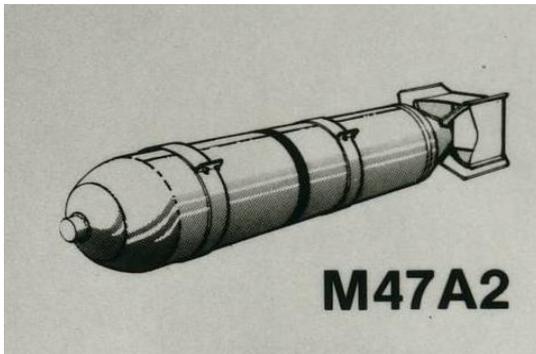


撮影：嶋原吉之祐 1945年（昭和20年）8月9日

福山駅は22時40分頃、焼夷弾攻撃を受け半焼しました。写真正面は、引込み線と被災した車両で、左側に本線1番ホーム（下り）があります。

写真は空襲翌日のもので、右上に火がくすぶり続けている様子が見えます。本線は、8月9日早朝には復旧し、運転が再開されました。

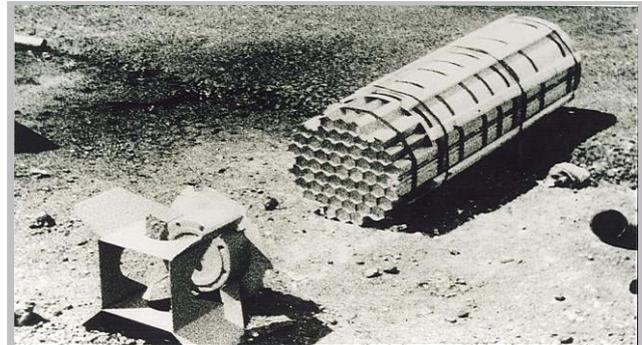
### 投下された爆弾



M47（油脂焼夷弾）

燃料体はグリス状で粘着力を持ち、着弾と同時に信管によって触発・炸裂火災を発生させる。

福山空襲では、最初の10機によって4,035発が投下され、市街地全体に火災を起こした。

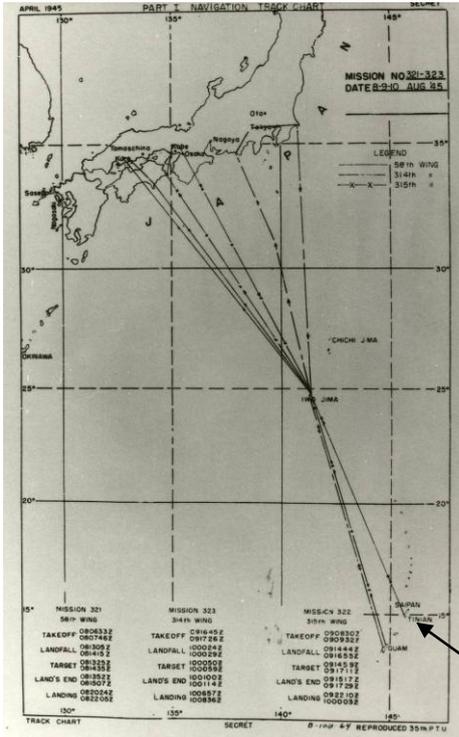


M17（集束爆弾）

6角筒で強い貫徹力を持つM50焼夷弾110本を内蔵した集束爆弾である。

福山空襲では、M17集束爆弾1,666発が高度約4,000mで投下され、M50焼夷弾は1,500m上空で散開し、18万本が雨のように降り注いだ。

福山への進入ルート



福山を空襲したアメリカ軍の第58連隊がテニアン基地を発進したのは、8月8日15時33分（1番機，日本時間）で，全機は硫黄島上空を經由し，高知県松下ヶ鼻から侵入しました。その後，香川県庄内半島の三崎灯台を経て，福山への最終進路を確定しました。

基地から福山まで，片道2,500 kmを約7時間で飛行したことになります。

- 福山上空の通過時間
  - ・ 距離：7.8 km（箕島～福山城）
  - ・ 通過時間：約60秒
  - ・ 爆撃高度：3,900m
  - ・ 時速：454 km

テニアン島

航空機の参加状況

| 攻撃部隊  | 出撃機数 | 爆撃機数 | 爆撃開始時刻        | 焼夷弾の型    | 数量(発) | トン数   | 投下高度   |
|-------|------|------|---------------|----------|-------|-------|--------|
| 第58連隊 | 12   | 10   | 13:25 (22:25) | AN-M47A2 | 4,035 | 139.2 | 4,084m |
|       | 86   | 81   | 13:37 (22:37) | AN-M17A1 | 1,666 | 416.5 | 3,992m |
|       | 3b   | 3    |               |          |       |       |        |

・bは気象観測(Wind Run)2機と救難機(Super Dambo)1機の補助任務を受け持つ機  
 ・( )は日本時間

B-29の行動時間

|      | 発 進       |           | 陸 地 確 認   |           | 目 標 到 達   |           | 陸 地 脱 出   |           | 帰 投       |           |
|------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|      | 世界標準時     | 日本時刻      |
| 1番機  | 08日 06:33 | 08日 15:33 | 08日 13:05 | 08日 22:05 | 08日 13:25 | 08日 22:25 | 08日 13:52 | 08日 22:52 | 08日 20:24 | 09日 05:24 |
| 最終尾機 | 08日 07:46 | 08日 16:46 | 08日 14:15 | 08日 23:15 | 08日 14:35 | 08日 23:35 | 08日 15:07 | 09日 00:07 | 08日 22:05 | 09日 07:05 |

発 進: テニアン基地を発進した時間  
 陸地確認: 高知県の離岸点を通過した時間  
 目標到達: 福山空襲が始まる照明弾投下時間  
 陸地脱出: 高知県の離岸点を通過した時間  
 帰 投: テニアン基地に着陸した時間

### 【戦争の被害】

15年戦争の被害は、軍人・軍属約230万人、戦災で死亡した人約50万人、そして、外地で死亡した人約30万人を合わせて、約310万人に達すると言われています。このような被害の増大は、飛行機、原子爆弾に代表される武器の発達によっています。

飛行機の発達は、無防備の都市を無差別に攻撃して非戦闘員の生命財産を奪い、原爆は一発で都市を壊滅させ、今日まで大きな問題を残しています。また、物資の量で圧倒するアメリカ・イギリスに対して、日本では、「大和魂」という精神論が強調され、最後の一人まで戦わされたことが、市民や兵士の犠牲を大きくしたのです。

※ 外地：第二次大戦敗戦前に、本土以外の日本の領土を呼んだ語。朝鮮半島、台湾など。



福山市戦災死没者慰霊の像（母子三人像）

### 平和非核都市福山宣言

恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。

この崇高な目標の達成なくして、福山市が目指す活力と潤いに満ちた心のふれあう都市づくりの実現もまたあり得ない。

しかるに、今日の世界情勢は緊張の度を加えつつあり、世界平和と人類の生存に大きな脅威をもたらしていることは憂慮にたえない。

福山市民は、生命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核武装の廃絶を全世界に強く訴え、恒久平和を求め、ここに、平和非核都市の宣言をする。

1984年（昭和59年）12月

福 山 市

#### 【参考文献及び出典】

「福山戦災復興誌」（昭和50年 福山戦災復興誌編さん委員会）

「福山空襲の記録」（昭和57年 福山空襲を記録する会）

「福山市史（下巻）」（昭和53年 福山市史編纂会）

「広島県戦災史」（昭和63年 広島県）

「平和を求めて」（2014年（平成26年）福山市人権平和資料館）

## 第1章 福山が燃えた日

(参考資料) おもな出来事 (～1945年)

| 西暦   | 元号      | 日本・世界の出来事   | 社会や福山市の出来事   |
|------|---------|---|--|
| 1908 | 明治41年7月 |   | 陸軍歩兵第四十一聯隊，司令部を福山に移す（現在の緑町公園）。あわせて福山衛成病院（のちの福山陸軍病院），岡山憲兵隊福山憲兵分遣所が設置される。  |
| 1931 | 昭和6     | 9月18日，柳条湖事件。満州事変始まる。  |  |
| 1932 | 7       | 3月1日，満州国建国宣言  |  |
| 1933 | 8       | 3月27日，国際連盟脱退  |  |
| 1937 | 12      | 7月7日，盧溝橋事件。日中戦争始まる。<br>12月13日，南京事件  | 11月，大日本国防婦人会福山支部発会   |
| 1938 | 13      | 4月1日，国家総動員法公布   | 6月，学徒勤労働員  |
| 1939 | 14      | 9月1日，第2次世界大戦始まる。（ドイツ陸・空軍ポーランド進撃を開始）   |  |
| 1940 | 15      | 9月27日，日独伊3国同盟調印<br>10月，大政翼賛会成立  | 11月，部落会・町内会の結成   |
| 1941 | 16      | 4月13日，日ソ中立条約調印<br>12月8日，太平洋戦争始まる。（ハワイ真珠湾空襲開始，マレー半島上陸開始）   | 4月1日，小学校を国民学校に改称<br>11月22日，国民勤労報国協力令（男子14～40歳，未婚女子14～25歳）  |
| 1942 | 17      | 6月，ミッドウェー海戦で日本軍大敗   | 配給制始まる。<br>5月，金属回収令による供出   |
| 1943 | 18      | 2月，ガダルカナル島撤退開始<br>9月8日，イタリア無条件降伏<br>12月1日，学徒出陣（第1回学徒兵入隊）  | 福山地方女子挺身隊が組織される。   |
| 1944 | 19      | 6月16日，八幡製鉄所空襲。B-29による初の空襲<br>6月19日，マリアナ沖海戦で空母，航空機の大半を失う。<br>7月，米軍，グアム島およびテニアン島に上陸<br>10月25日，海軍神風特別攻撃隊敷島隊，レイテ沖で初の体当たり攻撃  | 9月21日，学童疎開第一陣が福山に到着<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">アメリカ軍は，日本軍が占領していたサイパン島，グアム島，テニアン島，硫黄島に飛行場を作ったことにより，日本本土を空襲することが可能になった。</div>  |
| 1945 | 20      | 3月10日，B-29 東京を大空襲<br>4月1日，米軍，沖縄本島に上陸<br>5月7日，ドイツ無条件降伏<br>7月26日，対日ポツダム宣言発表<br>8月6日， <span style="border: 1px solid black;">広島に原子爆弾投下</span><br>8月8日， <span style="border: 1px solid black;">福山空襲（B-29，91機）</span><br>ソ連対日宣戦布告<br>8月9日， <span style="border: 1px solid black;">長崎に原子爆弾投下</span><br>8月15日，第2次世界大戦終わる。（日本，無条件降伏，ポツダム宣言受諾を発表）<br>正午，戦争終結の詔書を放送（玉音放送）<br>9月2日，降伏文書に調印 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">アメリカ軍は，3月10日から6月15日まで，東京，横浜，名古屋，大阪，神戸などの大都市を徹底的に空襲した。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">中小都市の攻撃が始まる。ほぼ毎日，日本のどこかで空襲があった。<br/>6月28日 岡山（138機）<br/>7月1日 呉（152機），下関（128機）<br/><br/>8月15日までに，広島と長崎を含めた66の都市が焼き払われた。</div> 11月2日，連合軍1000人が福山市の旧海軍航空隊施設（現在の大門町津之野下）に進駐 |

※ 年表の作成にあたっては、「近代日本総合年表」（岩波書店），福山市史（下巻），「岡山空襲の記憶」（岡山市）を参考にした。

## もっと知ろう、戦争のこと！

### ～戦争体験者の証言から～

#### ☆ 体験者 「今、伝えておかなければ・・・」

戦後70年が過ぎ、戦争のことを語る人も年々少なくなっています。  
あんな辛い経験を子や孫にさせないために、今の平和な時代が「戦前」とならないために、今、話しておかなければなりません。

#### ★ 私たち 「今、聞いておかなければ・・・」

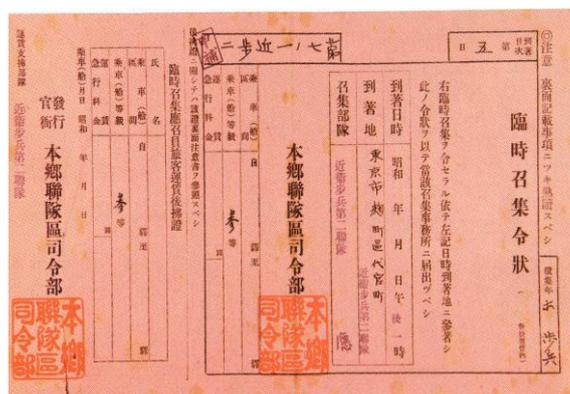
70年前、日本でどんなことがあったのか、私たちの福山では何が起こったのか、体験した人の声を聞いて、もっと戦争のことを知りたいです。

そして、今の平和がずっと続いていくために、私たちに何ができるだろうかを考えたいと思います。

#### ◇ 戦争中はどんな暮らしをしていたんだろう？

働き盛りの男の人は、次々に兵隊へ。  
家には、お年寄り・女の人・子どもといった家庭が増えてきて、みんな厳しく苦しい生活を強いられていました。  
(証言者のみなさん)

※ 以下証言者の年齢は、  
福山空襲当時のものです。



臨時召集令状（赤紙）

#### ■ 日々の生活は？

□ 男の人がしていた仕事を、お年寄りや女の人が中心となってしなければならなくなり、もちろん、子どもも年齢によってできる限りの仕事をしました。（男性；11歳）

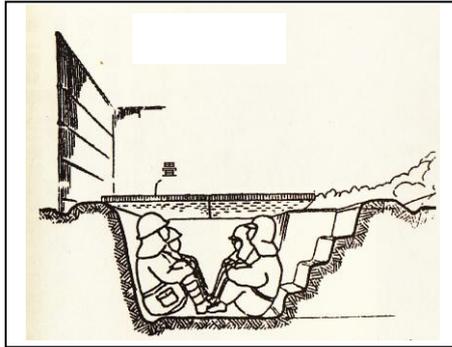
□ 本土空襲が激しくなると、防火訓練（バケツリレー）、避難訓練、竹やり訓練などに頻繁に駆り出されました。そして、国の指導によって、各家々に防空壕を掘りました。

（男性；14歳，女性；8歳，男性；12歳）

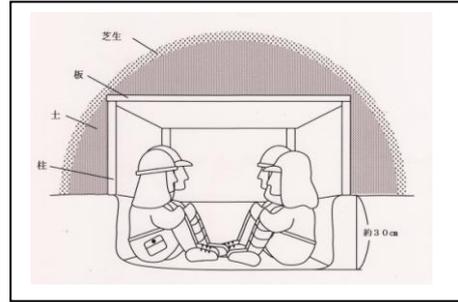


竹やり訓練

一般的な家庭用防空壕



写真速報（昭和18年）より作成



福山市内の多くの防空壕（深く掘りすぎると水がしみ出る）

- 空襲時の延焼を防ぐために、強制的に建物疎開（建物を取り壊すこと）をさせられました。（女性;20歳）
- 寺の釣鐘や鉄瓶など金属類はもちろんのこと、農家は米，サツマイモ，豆などを供出（国に納めること）していました。（男性;12歳，女性;11歳，男性;8歳）

■ 服装は？

- 男の人はカーキ色（枯れ草色）の服に脚絆（きゃはん），女の方は着物にモンペといった服装が一般的でした。衣服は衣料切符で購入していましたが，充分ではなかったので，親は自分の着物を子どものモンペに縫い直してきていました。（1着で2～3人分作った）。（女性;8歳）



脚絆（ゲートル）  
脛（すね）の部分に巻く，布または皮でできた被服



女子の標準服

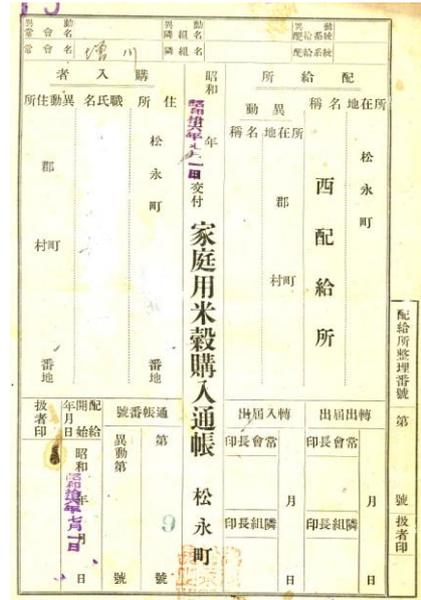
- 履物はほとんどの人が下駄や藁草履（わらぞうり）を履いていました。中にはズック（運動靴）を履いていた人もいましたが，穴があいて指が出るまで履きました。（男性;8歳，女性;20歳）



衣料切符

■ 食べ物？

- 食料切符や米穀通帳により、各家庭への食料配分や購入量が決まっていました。  
(男性;12歳)
- とにかく貧しい食生活でした。米は戦地の兵隊さんへ送るため、農家の人でさえ米はめったに食べられず、麦や雑穀、サツマイモやカボチャなどを食べていました。  
配給制度がありましたが充分ではなく、日本中が腹を空かしていたと言っていいでしょう。そんな中、祭りや学校行事など特別な日には、白米、餅、卵などを食べることができました。(男性;8歳, 女性;10歳)

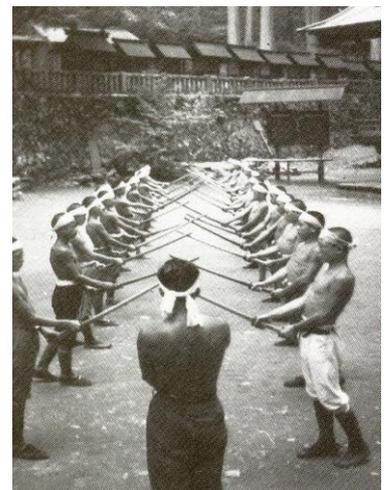


■ 学校生活は？勉強や遊びは？

- 国民学校へ通学しました。ランドセルは紙製、履物は藁草履、雨降りにはランドセルにデンパチ（日除け雨除けのため頭にかぶる笠）をかけ、藁草履は手に抱えて裸足で通学しました。  
(男性;8歳)
- 毎日、校長先生が日本軍の戦況を話していました。(女性;12歳)
- 弁当はほとんど麦飯（米のご飯だと先生に叱られた）でした。運動場は耕してイモ畑にしていました。高学年は、体育の授業で飛行訓練のようなこともやっていました。(男性;8歳)
- 戦況が厳しくなるにつれて、学校でも防災訓練・避難訓練・竹やり訓練などが盛んに行われたり、農作業をしたりで勉強どころではなくなりました。運動場のあちこちに防空壕を掘りました。男の先生は次々出征（兵隊に行くこと）され、学校には女の先生が多くなりました。  
(女性;20歳)
- 中学生（旧制中学）は学徒動員で呉工廠や三菱電機などの軍需工場に行き、兵器を作る作業をしていました。また、16歳になると志願兵として軍隊へ行く人もいました。ほとんど勉強はしていませんでした。(女性;16歳, 男性;14歳)
- 子どもの遊びは、ラッパを吹いて戦争ごっこをしたり、木切れを持ってチャンバラごっこをしたりしていました。(男性;11歳, 男性;8歳)



デンパチ笠



木刀を構える高学年児童

また、おしくらまんじゅう、石けり、缶けりなどもしました。そして、山でドングリや薪、松脂（やに）や松根油（しょうこんゆ）を採って学校などへ持って行くのが子どもの仕事であり、遊びでした。（女性;11歳）

- 女子は髪が長かったので、多くの子が頭にシラミがわいて、痒くて勉強にもなりませんでした。（女性;8歳）

### ◇ 福山空襲のときの様子は？体験した人の思いは？

#### ■ いつ？どんなことが？被害状況は？

- 終戦の一週間前〔1945年(昭和20年)8月8日、午後10時25分ごろ〕のことでした。〔P6参照〕
- アメリカの爆撃機B-29が91機、ガソリン混入の焼夷弾4千発、集束爆弾18万本を投下しました。〔P8参照〕
- 市街地の80%以上が焼け、焼失家屋10,179戸、死者354人、負傷者864人という被害がありました。〔P7参照〕
- 兵隊に行かなかった男の人は、空襲警報が鳴ると近所の見廻りに出かけ、家にはお年寄り・女の人・子どもが残され、戦火の中を死にものぐるいで避難しました。（男性;14歳）

#### ■ 真夜中、火の海の中をどんなにして逃げたのだろう？

- 家を守ろうと最後まで頑張った人、布団を水で濡らして頭から被って逃げた人、小さい子を背負って逃げた人、近くの小さな川へ飛び込んで火から逃れた人、防空壕へ入った人、防空壕へ入れなくて芦田川へ向かった人、事前に決められていた避難場所（明王院）へ向かった人など、さまざまです。人々は恐怖の中を逃げ惑いながらも、それでも弱い人へ手を差し伸べることを忘れませんでした。（証言者のみなさん）



炎に包まれる市街地 藤原邦子

- 死者のほとんどが焼死でした。逃げ遅れた人を最後まで誘導して亡くなった人、焼夷弾の直撃を受けて亡くなった人、防空壕に逃げ込んだために亡くなった人、市内を流れる川の橋の下や田んぼに逃げて亡くなった人など、多くの方が犠牲になりました。（男性;14歳）
- 焼夷弾の熱で逃げ込んだ川の水がお湯のように温かくなっていました。（男性;7歳）
- やつとの思いで避難し、振り返るとちょうど福山城が東の方へ傾いて焼け落ちるのが見えました。「ああ、これで福山もおしまいだ」と思いました。

翌朝、避難先の明王院でもらった炊き出しのおにぎりは、とても美味しく、うれしかったことを憶えています。（男性;12歳, 男性;14歳, 男性;7歳）

■ **なぜ福山が空襲を受けたのだろう？**（当時は地方の小さな市だったのに）

福山には、軍事施設（陸軍歩兵第41聯隊、海軍航空隊）があり、軍需工場（三菱電機、帝国染料）がありました。そして、駅を中心に住宅密集地となっていたことも理由の一つです。〔P3～4 参照〕

福山空襲の10日ほど前に、B-29が空襲予告ビラ（伝単）約6万枚を撒きました。「アメリカの敵は、あなた方ではない。勝ち目のない戦争を長引かせないために、軍事施設や軍需工場を狙って…」といった内容でした。（P5 参照）

- 拾ったビラを親に見せると、「そんなもの読まなくていい」と言って叱られました。ビラは憲兵隊等にほとんどが回収されました。（男性;12歳）

■ **8月6日の広島への原子爆弾投下のことは、  
福山の人には知っていたのだろうか？**

- 「広島でガスタンクが爆発した・・・」、「広島に新型爆弾が・・・」などと言っていました。「原子爆弾」だとわかったのは、ずっと後になってからです。（女性;20歳）
- 一週間ほどして、被爆した人たちが福山（横尾駅）に避難してきたのを見ました。（女性;12歳）

■ **そして、8月15日終戦の日。人々の思いは？**

- それぞれの地域で指定場所に集められ、ラジオから流れてくる玉音放送（天皇の肉声で終戦を伝える放送）を聞きました。戦争が終わってほっとしたという思いもありましたが、これからどうなるんだろうという不安の方が大きかったと思います。（男性;7歳）

◇ **終戦直後の暮らしはどうだったんだろう？町の復興は？**

■ **市街地は壊滅状態だったようだけど、住むところはどうしたのだろう？**

- 家を失った人は、親戚などを頼って間借りなどをしていました。焼け跡にバラックを建てて、畳はないので蓆（むしろ）を敷いて住むのがやっとでした。（女性;11歳）
- 市街地は焼け野原となり、翌朝、歩くと地面から熱が伝わりとても熱かったです。街中に言うに言えない臭いが漂っていました。霞小学校は焼け落ちて、運動場には多数の大きな穴があいていました。（女性;20歳）
- 区画整理（家や土地の線引き）は比較的早く行われました。自分の土地を確保するために、もとの住居跡に居住する必要がありました。（女性;8歳）

- 福山は比較的復興が早かったと思います。歩兵第41聯隊があったため、戦前から市街地の道路がよく整備されていたことも大きな要因です。

福山駅も焼けましたが、空襲の翌日（8月9日）から列車が走りました。電話や上水道の復活も早かったようです。（男性;8歳, 女性;8歳）

しかし、電気が点くのは遅くて、しばらくロウソクの灯りで暮らしていました。（男性;12歳）



空襲で焼けた弁当箱とガラス

### ■ 食生活は？

- 戦後の食糧難は大変でした。米とか麦とかではなく、食べる物そのものがありませんでした。イモ蔓（つる）などで作った「更生（こうせい）団子」や「糠（ぬか）団子」でさえ、食料切符でやっと手に入れるといった状況でした。農家の方から、衣料などと物々交換で米やサツマイモをもらっていました。ヤミ米を買う人もいましたが、警察に見つかりと取り上げられました。（女性;8歳, 男性;12歳, 男性;7歳）



糠団子とサツマイモ

- お菓子はなかなか食べられませんでした。2週間に一度ぐらい町内会を通じてキャラメルなどの販売がありましたが、高くて子どもの小遣いでは買えませんでした。（男性;12歳）

### ■ 学校生活は？

- 終戦直後、しばらくは学校へ行っても戦争の後始末の大掃除ばかりしていました。霞小学校は丸焼けとなり、西小学校と2部授業（午前と午後に分けて）をしていました。運動場で青空教室の授業もありましたが、それも楽しかったように記憶しています。（女性;11歳, 男性;7歳）

- 長い髪の子はシラミが湧きました。駆除するために、進駐軍から支給されたDDT（白い粉末の殺虫剤）を先生が頭に振りかけてくれました。（女性;8歳）

- 空襲で家を焼失した子は、欠席しても出席扱いとなりました。学校は早く始まりましたが、欠席者が多くいました。（男性;14歳）



墨を塗った教科書

- 戦前の教育と変わったため、教科書の文を先生の指示によって墨で黒く塗りつぶしました。また、手作りの凧の絵に日章旗を描いて、先生に注意されました。(男性;7歳)
- 焼け跡を整地した空き地があちこちにあり、手作り(綿入り布製)のグローブで野球をして遊んでいました。(男性;11歳)

**～戦争の体験を話してくれた人たちは、**

**私たちに何を伝えようとしているのか。**

**戦争を知らない私たちは、何を受け止めればいいのか～**

- 戦争は何もかも奪ってしまいます。一人ひとりに一つしかない大切な命を、家族や友人を、財産を、文化を、歴史を。奪われるのも人、奪うのも人です。(証言者のみなさん)
- 戦争の体験があるからこそ、今の平和がどれだけ有り難く大切であるかを感じています。だからと言って、あのような体験はしたくないし、子や孫にさせたくありません。(証言者のみなさん)
- だからこそ、いかなる理由があろうと、どんな戦争だろうと、正義の戦争はあり得ないと思っています。(証言者のみなさん)

### **★私たちにできることを見つけよう…**

戦争を体験された方々のお話を聞いて、戦時中の福山がどんな様子だったか、少し知ることができました。

…と同時に、辛い経験を経て、私たちの世代に託す「平和への思い」の重みにも気づかされました。

私たちは、もっともっと戦争について学び、考え、語り合って、平和な社会をつくるために、私たちの力でできることを見つけ、実現していきましょう。

『福山が燃えた日』リレートーク～私も聞きたい！話したい！』から抜粋

木村 滋さん（1931年2月生まれ。当時旧制誠之館中学校3年生）

当時、私の家には、親父とおふくろと妹がおりました。妹は小学校の児童だったんですが、空襲を私は覚悟しておりましたので、夕方になると自転車で芦田川の向う側（明王院のところ）の親戚の家へ、妹を連れて行っていました。だから、そちらは安心だったんです。私の親父は民間人ですが、空襲警報が出ると、警察へ詰めなければならないことになっていたようです。警官ではないんですよ。臨時に応援に行くんですね。だから早速出て行きまして、家には私と母親がいました。もう火の手がどんどん広がりました。日本でも爆撃は2種類ありますね。爆弾が落ちる都市と、福山市のように爆弾は一発も落ちないで、全部焼夷弾。焼けるのはこちらの方が大きい火が出ています。爆弾の方は、巨大な爆弾ですから、爆風によっていっぺんに命を落とします。福山の場合はほとんどが焼死です。直撃弾に当たられた方もあったと思います。たくさん落ちましたから。私も母親を連れて逃げたんですが、目の前で六角形のこれぐらい（手を広げて、約35センチの長さ）の焼夷弾が、屋根や地面に落ちるとそのショックで破裂して火が出るんです。だから芦田川に落ちたのは、砂へ突っ立ったままで発火していないんです。これは戦後子どもが芦田川で遊ぶ時に、大変危険なものでした。早く撤去はされました。

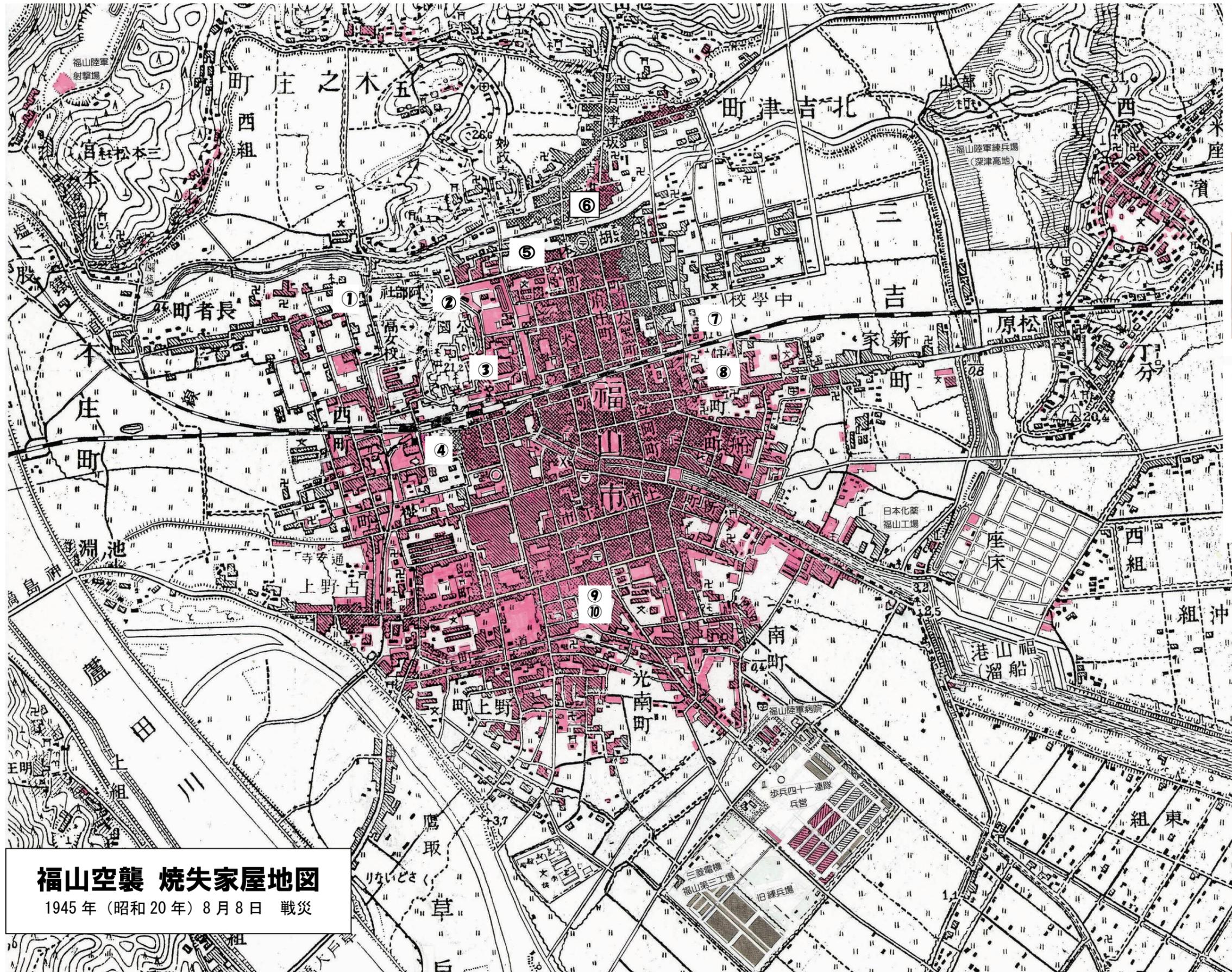
私は生意気なものですから、最後まで頑張りました。ご近所の方もおられるんですが、ほとんど退避されていた中、まあもうちょっと、あれでも消せるんじゃないかと。消えるわけではないですよ。家中が全部燃えているんですから。もうこれ以上は無理だというんで、ほとんど腰が抜けかかった母親を引っ張って出る時に、押入れから布団を出して、防火のために家の前に水を溜めていた防火水槽に浸けて、母親に頭から被らせ、私も被って逃げました。もう道路は、両側が燃えて危なくって通れません。前の家を通って道三川に入り、川を渡るのを躊躇していた母親を引っ張って向う側に渡り、道路もよその家も関係なく、燃えていない所を選びながら、やっとの思いで芦田川まで逃げました。そして、

芦田川を渡って向う側の土手に着きました。そちらには親戚があるものですから。それに妹はそこに行っていましたのでね。親戚に避難して振り返った時に、(まったくの偶然ですが)市内は猛火に包まれて大変な状況でしたが、福山城の天守閣が完全に燃えていまして(伏見櫓は燃えなかったようですが)、東側へドッと崩れ落ちたのを見て、ああ福山ももうこれでおしまいだなと、それよりももう戦争は駄目だなと、つまり敗戦を痛感しました。間もなく終戦になったんですが、日本中があちこちやられました。福山がたしか最後から2番目の街だったと思います。

福山も41聯隊という軍隊がありましたので、狙われる可能性は多分にあったんです。それから三菱電機が軍需工場でしたから、福山も必ず狙われるなど思っていました。いよいよ最後の最後にまわされて、ついでに焼けずに済めばよかったんですが、福山が8月8日でしたか、終戦の1週間前にやられたんです。たくさんの方が逃げていましたが、あの焼夷弾というのは直撃も可能性があります、数をたくさん落とすから。家に落ちると屋根に当たりますね。落ちる時はシューっという音で落ちるんですが、屋根やコンクリートの道路に当たるとカーンという鋭い音がして、それで爆発するわけです。そして火を吹くんです。それで家に燃え移るんですね。中には直撃弾が偶然当たられた方もあったと思います。死者は354名と言われますが、一番の被害者は子どもと女性だと思います。私は母親を引っ張って逃げることができましたが。

それともう一つ悲惨だったのは、国の指導で各家に防空壕を作らせられていました。私の家も裏庭に作りました。個人が作る防空壕ですから、役に立たないんです。案の定それに避難した人は、防空壕の中で焼け死んだ人がかなりおられるんです。私はこんな所に入るもんじゃないと思っていたから、物を入れておっただけで人間は入らずに逃げました。国も市も大きな戦争になって、手の打ちようもなかったんでしょうね。空襲があっても抵抗は一切しないんですから。東京なんかはB-29が来ると高射砲などで反撃していたようですがね。まず当たりませんでしたねえ。当たったというのは聞かなかった。福山はそんなものはないので、やられっぱなしでした。

# 福山空襲による焼失家屋地図と主な空襲遺跡



①福山市人権平和資料館



②安部和助別邸跡



③福山城被災石



④最上教会追善碑



⑤高野山福山別院



⑥土橋



⑦光善寺・英霊堂



⑧大念寺(石仏)



⑨戦災死没者慰霊碑(母子三人像)



⑩福山遊園地噴水池(モニュメント)



【証言をしてくださったみなさん】

|                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 江木吉江さん (1934 年生まれ) | 杉原靖子さん (1941 年生まれ)  |
| 江草孝昌さん (1934 年生まれ) | 高石朝美さん (1933 年生まれ)  |
| 枝広 稔さん (1937 年生まれ) | 高橋加造さん (1944 年生まれ)  |
| 落合照江さん (1929 年生まれ) | 藤井弘一郎さん (1938 年生まれ) |
| 開原則二さん (1937 年生まれ) | 松本和子さん (1925 年生まれ)  |
| 河相博子さん (1932 年生まれ) | 水田富子さん (1935 年生まれ)  |
| 木村 滋さん (1931 年生まれ) | 三鼓照子さん (1933 年生まれ)  |
| 近藤茂久さん (1933 年生まれ) | 森近静子さん (1937 年生まれ)  |
| 佐藤隆江さん (1939 年生まれ) |                     |
| 杉原 弘さん (1938 年生まれ) | (五十音順)              |

【協力してくださったみなさん】

福山市霞公民館，霞学区自治会連合会，  
福山市引野公民館館長 藤井和壽さん

【「福山が燃えた日」編集委員】

福山市人権平和資料館と「ふくやまピース・ナビ」のみなさん  
井崎育子，杉原 弘，富山真理子，中山由紀夫，藤井秀雄  
船井真奈美，古谷佳子，堀家美智子，光成京子，三宅予枝子

(五十音順)



福山が燃えた日

2016 年 (平成 28 年) 3 月発行

編集 福山市人権平和資料館

ふくやまピース・ナビ

発行 福山市人権平和資料館

〒720-0061

福山市丸之内一丁目 1 番 1 号

電話 084-924-6789

非売品



福山城から見た現在の福山駅前